

The background features a dark grey surface with a pencil lying diagonally from the top left towards the bottom center. The pencil is dark brown with a red band. The surface is covered with numerous colorful, overlapping scribbles in shades of blue, purple, green, and orange. On the left side, there is a solid orange arrow pointing to the right.

外国人労働者・留学生に対する 金融排除の現状

アンケート・インタビュー調査結果をもとに

社会政策学会第145回大会 於：日本福祉大学

2022年10月8日（土）自由論題報告 午後1D（生活困窮）

報告者 小関隆志（明治大学）

報告要旨

2

- 在留外国人は276万人（2021年末時点）と長期的に増加が続いており、特に政府の受け入れ政策もあって労働者・留学生の増加は著しい。
- 外国人労働者・留学生を、生活者として受け入れるには、住宅や教育など多様な分野での包摂策が必要だが、その一つが金融である。
- 政府の政策には「金融・通信サービスの利便性の向上」も含まれており、外国人に対する金融包摂への注目が集まったが、金融機関による対策は十分とはいえない。
- 報告者は、在日外国人に対して、金融排除に関するアンケートとインタビューを実施した。
- 日本語能力や手続きの煩雑さ、つながりの欠如等により、口座開設など基礎的な金融サービスへのアクセスが困難、生活費の不足、公的な相談窓口を利用しないなどの回答がみられた。

報告の構成（目次）

1. 外国人の社会的排除と金融排除
 - ① 外国人の社会的排除をめぐる問題
 - ② 外国人の金融排除をめぐる問題
2. 外国人の金融排除に関する先行研究レビュー
 - ① 海外の先行研究
 - ② 日本国内の先行研究
3. 本研究の目的と方法
 - ① 本研究の目的
 - ② 本研究の方法
4. 調査結果
 - ① 第1回アンケート・インタビュー結果
 - ② 第2回アンケート・インタビュー結果
 - ③ 第3回アンケート・インタビュー結果
5. 結論と本研究の限界

* 調査結果詳細については、別紙フルペーパーを参照してください。

謝辞

本研究はJSPS科研費 21H00796の助成を受けたものです。

本調査を実施した（株）グローバルトラストネットワークス（GTN）の協力に感謝します。

1. 外国人の社会的排除と金融排除

(1) 外国人の社会的排除をめぐる問題

▶ 外国人の増加

- ▶ 日本に住む外国人は200万人（2012年）⇒276万人（2021年）
- ▶ 「特定技能」の新設、留学生30万人計画

▶ 外国人の社会的排除

- ▶ 公的医療、年金、公的扶助、就職・雇用、居住、子どもの教育、母子世帯の貧困など
- ▶ 在留資格に伴う制度的な排除（社会保障など）と、非制度的な排除（言語の壁、差別偏見、社会的孤立など）

▶ 政府の政策

- ▶ 「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」（2018年）
- ▶ 日本語教育、情報発信・相談体制、ライフステージ・ライフサイクルに応じた支援、共生社会の基盤整備の4つを重点事項に

1. 外国人の社会的排除と金融排除

(2) 外国人の金融排除をめぐる問題

➤ 金融排除は社会的排除の一つ

- 本人にとって適切な金融サービスを利用できない状況
- 利用を拒否されるだけでなく、利用条件が悪い、条件が合わない、情報弱者、自己排除なども含まれる
- 他の社会的排除とも密接な関係

➤ 外国人が直面する金融排除問題

- 言語の壁、金融制度・サービスに対する知識の欠如、文化・価値観の相違、身分による制約、金融機関側の差別・偏見など

➤ いまなぜ金融排除なのか

- 日常生活を支えるライフラインとしての金融
- 労働者・留学生の急速な増加
- マネーロンダリング・テロ対策（以下、「マネロン・テロ対策」）
- 外国人を対象とする金融教育の欠如

2. 外国人の金融排除に関する先行研究レビュー

(1) 海外の先行研究

▶ 欧米諸国の先行研究から得られる視点

- ▶ 移民（外国人）が直面する金融排除
- ▶ 金融包摂の方法論
⇒国内の研究で参考にできる

▶ 移民の金融サービス利用に関する研究

- ▶ 移民の経済的背景（貧困問題）
- ▶ 言語の壁
- ▶ 信用履歴の薄さ
- ▶ 文化的背景（価値観、行動パターン、インフォーマル金融など）
- ▶ 移民固有のライフサイクルと金融ニーズ
- ▶ 地理的要因 など

2. 外国人の金融排除に関する先行研究レビュー

(2) 日本国内の先行研究

➤ 体系的な調査研究がほとんどない

- 歴史が浅く、かつ時事解説的な論文・記事が多い

➤ 近年の議論

- **海外送金をめぐる議論（2000年代後半～2010年代）**：外国人が祖国に送金する際の利便性や手数料が主な論点。資金移動業者の市場参入により、送金の利便性・手数料は改善した
- **銀行口座をめぐる議論（2010年代末）**：外国人への円滑な金融サービスの提供と、マネロン・テロ対策のジレンマが主な論点。コロナ禍で外国人の流入が抑制され、議論は棚上げに



- 海外送金や銀行口座開設だけが断片的に取り上げられ、多様な金融サービスを視野に入れていなかった。外国人の多様性も考慮せず

3. 本研究の目的と方法

- (1) 本研究の目的
- (2) 本研究の方法

➤ 目的

- 日本に住む外国人の金融排除の状況の一端を解明すること
- 外国人が日本の金融サービスへのアクセス・利用についてどのような経験をして、どう認識しているか
- 金融排除に関して、どこに問題があるのかを見出す手がかり

➤ 方法

- 日本に住む外国人（主に労働者・留学生）に対する意識調査（アンケート・インタビュー）
- アンケートとインタビューのセットを3回実施（2021年8月、2022年2～3月、2022年7～8月）
- 外国人に多様なサービスを展開する民間企業（株式会社グローバルトラストネットワークス；GTN）に調査を委託
- 科研費・基盤研究（B）の研究の一環として実施

3. 本研究の目的と方法

(2) 本研究の方法

9

回数・種類	実施時期	回答者数	多言語版
第1回アンケート	2021年8月6日送付、 8月22日回収	250名	英語、中国語、韓国語、ベトナム語
第1回インタビュー	2021年9月実施	25名	英語、中国語、韓国語、ベトナム語
第2回アンケート	2022年2月21日送付、 3月3日回収	250名	英語、中国語、韓国語、ベトナム語
第2回インタビュー	2022年2月～3月	25名	英語、中国語、韓国語、ベトナム語
第3回アンケート	2022年7月12日送付、 7月13日回収	250名	日本語、英語、中国語、ベトナム語
第3回インタビュー	2022年8月	26名	日本語、英語、中国語、ベトナム語

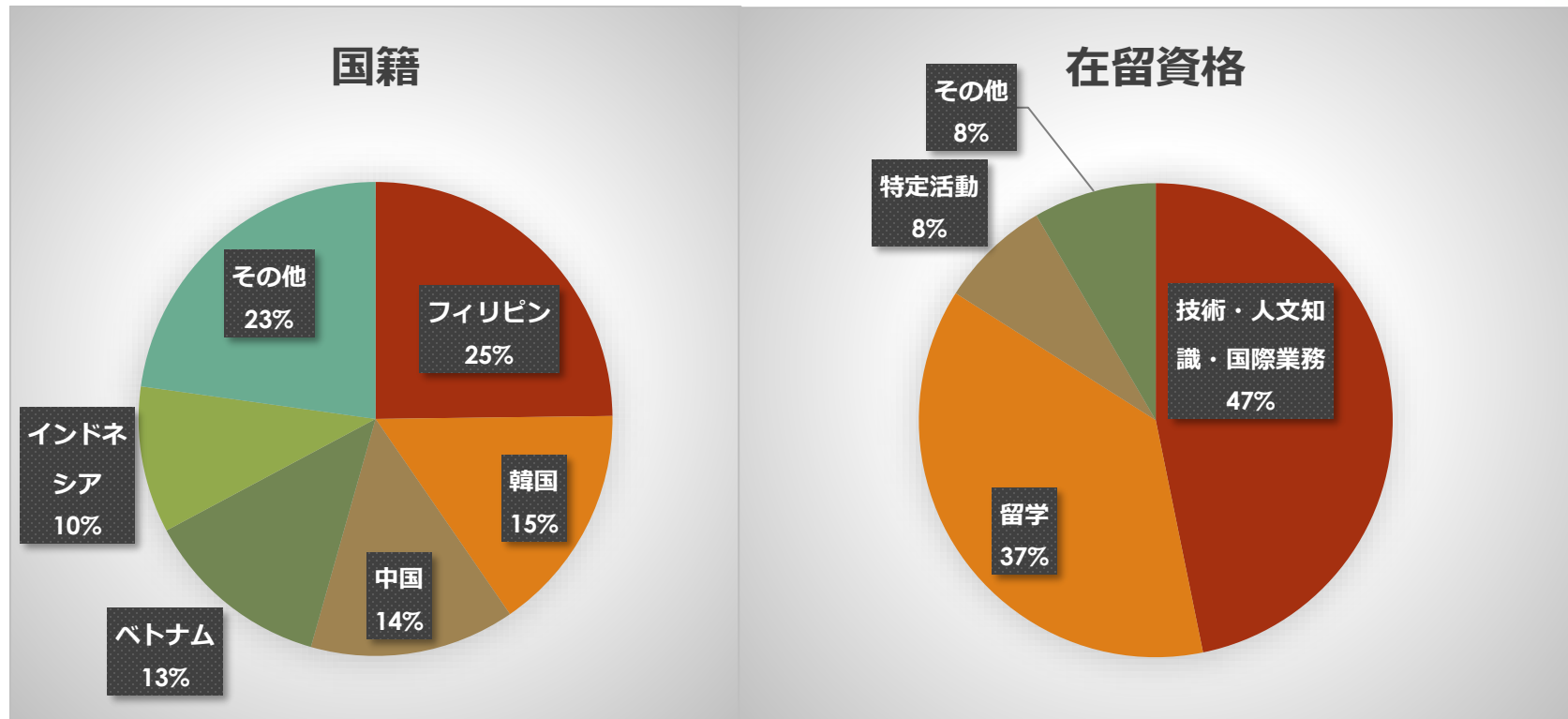
1. GTNのサービス利用者にアンケートへの協力を呼びかけ、先着250名の回答を受け付けた。アンケートで、インタビューへの協力の意思を示した25名に聞き取りを行った。そのため回答率は算出できない。
2. 回答者の氏名や連絡先など、個人を特定できる情報は一切収集していない。

4. 調査結果

(1) 第1回アンケート・インタビュー結果

▶ 回答者の主な属性

- ▶ 東アジア・東南アジア出身者、労働者（特に技術・人文知識・国際業務）と留学生が中心



国籍の「その他」は、アメリカ、カナダ、オーストラリア、タイ、ネパール、マレーシア
在留資格の「その他」は、特定技能、家族滞在、企業内転勤、技能、経営・管理、高度専門職

4. 調査結果

(1) 第1回アンケート・インタビュー結果

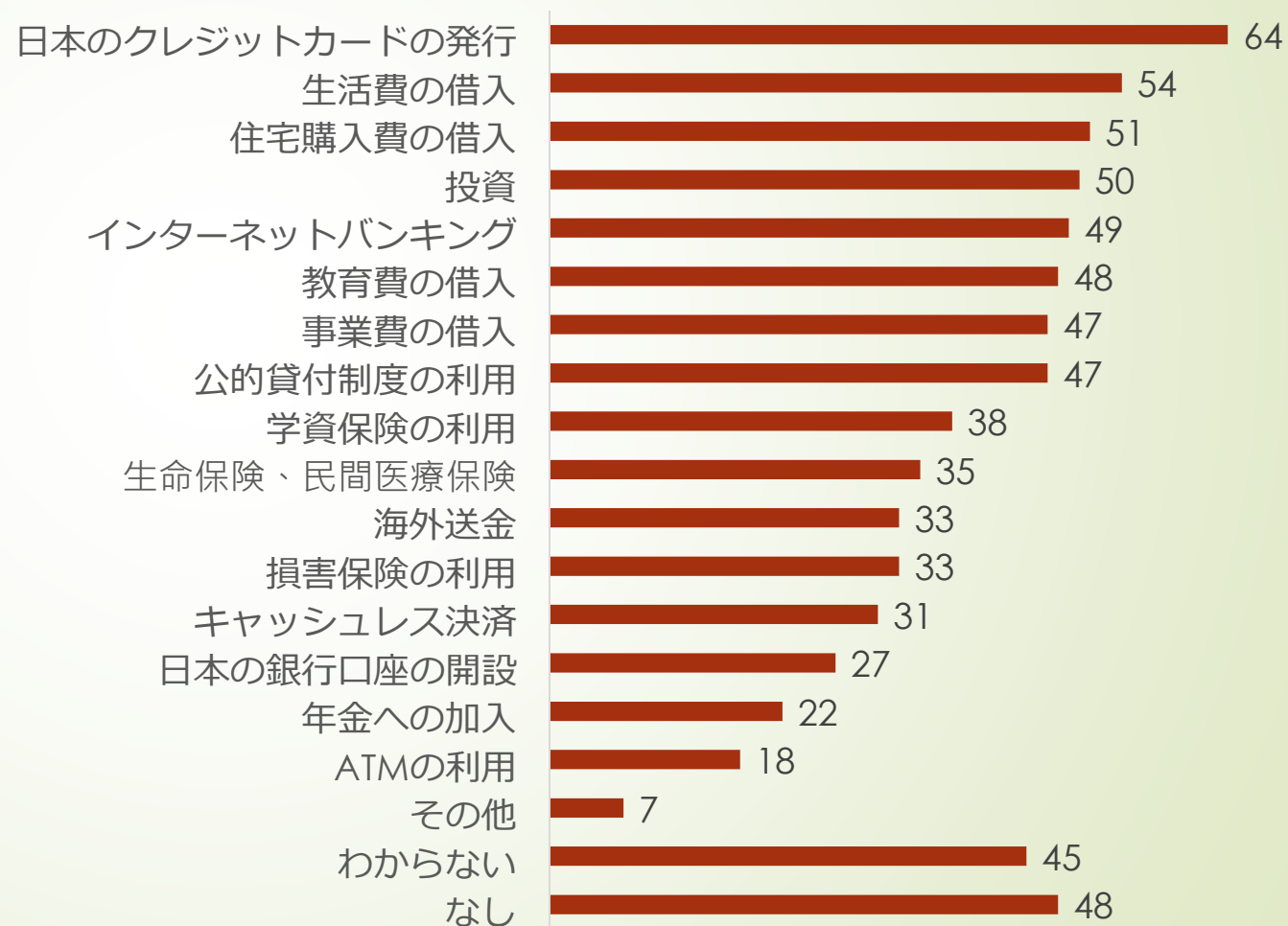
▶ **各種保険や借り入れ（特例貸付を含む）の利用が極めて少なく、クレジットカードや借り入れを断られる人が多かった**

▶ **利用できなかった主な理由は、言語の壁と知識・情報不足**

- ▶ 日本語でのコミュニケーションが充分できなかった（29%）
- ▶ 制度自体を知らない、必要なサービスがどこで得られるのか知らない、用語が難しい（29%）
- ▶ このほか在留資格などの身分、金融機関の差別など

* 理由はあくまでも回答者の認識

問2 利用できなかった金融サービス



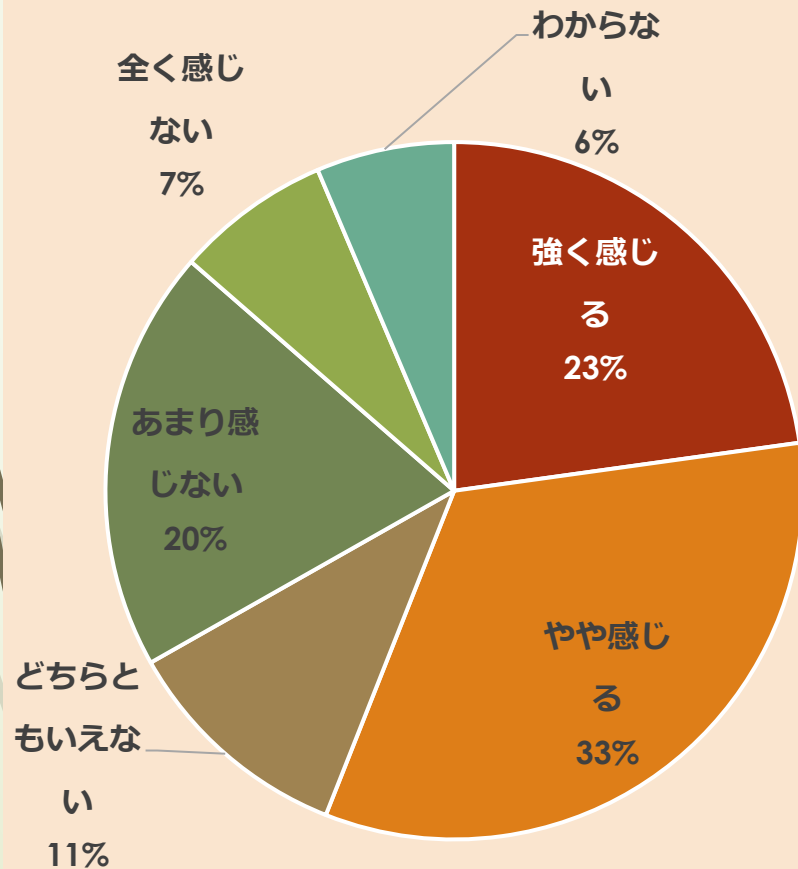
4. 調査結果

(1) 第1回アンケート・インタビュー結果

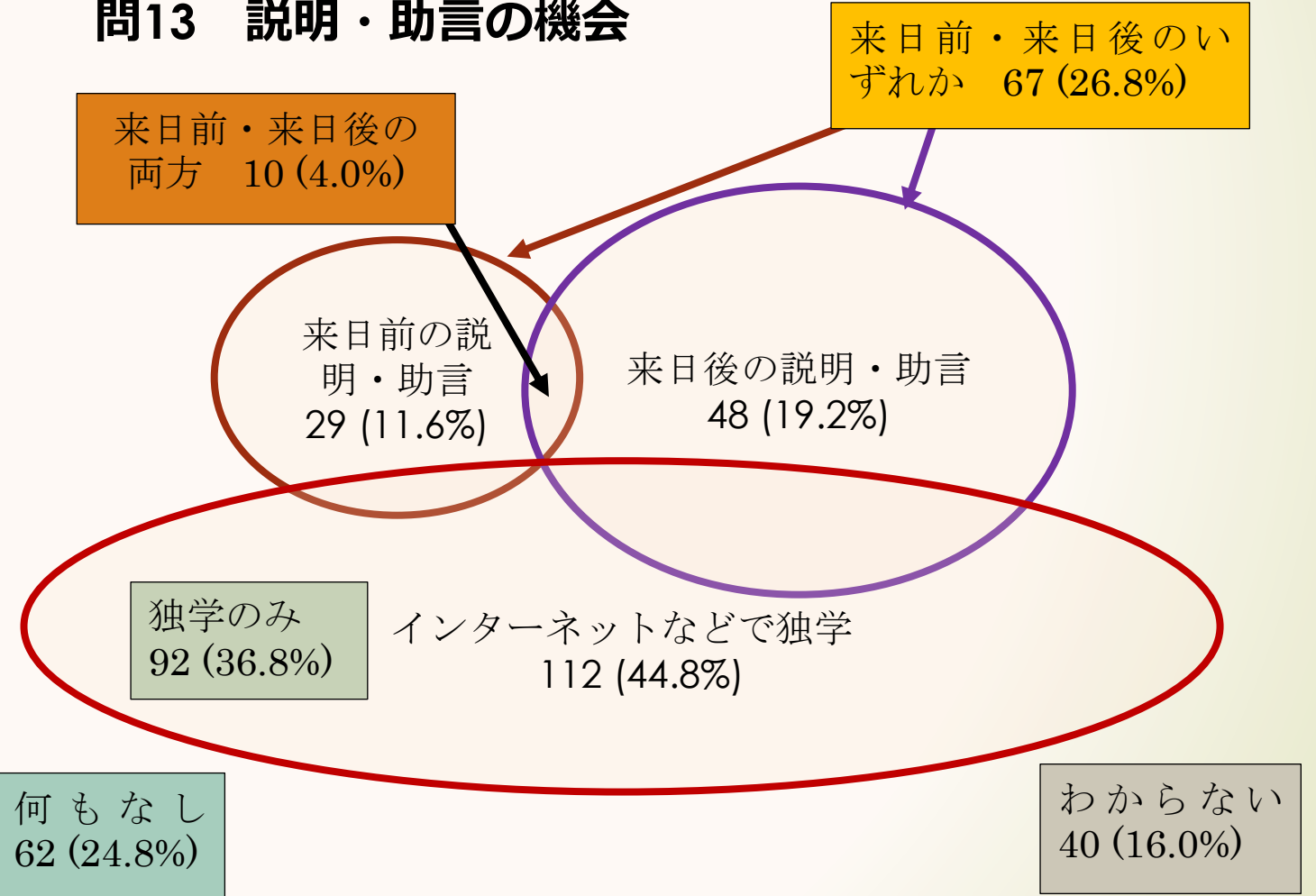
12

- ▶ 来日前後に日本の金融サービスについての説明・助言を得る機会がなかったという回答者が7割以上

問12 知識・スキルの不足



問13 説明・助言の機会

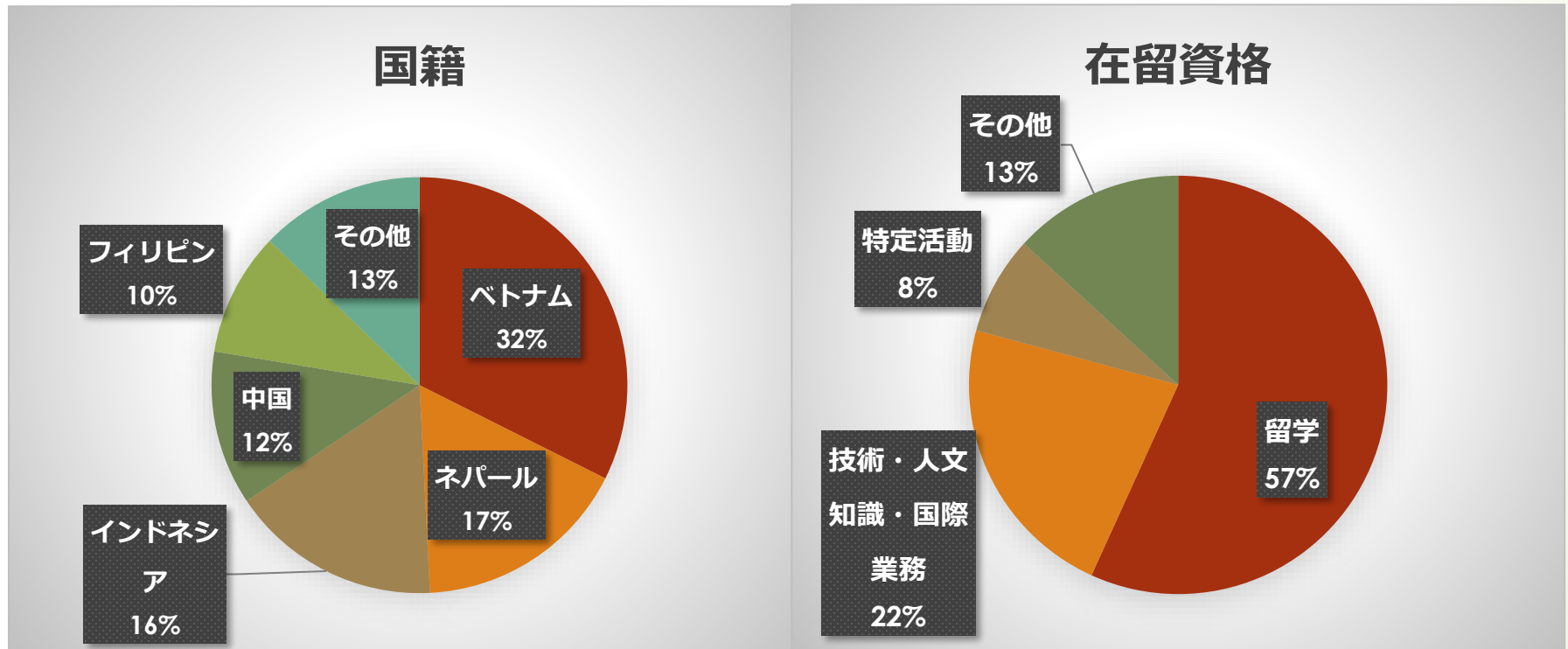


4. 調査結果

(2) 第2回アンケート・インタビュー結果

回答者の主な属性

- 東アジア・東南アジア出身者、労働者（特に技術・人文知識・国際業務）と留学生が中心



国籍の「その他」は、韓国、タイ、マレーシア、カナダ、アメリカ、オーストラリアなど
在留資格の「その他」は、家族滞在、特定技能、技能、高度専門職、経営・管理など

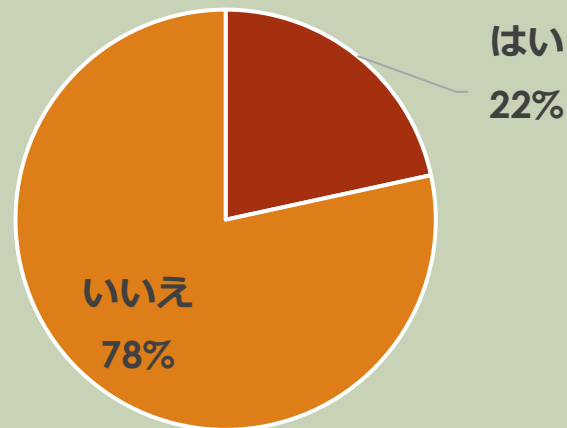
4. 調査結果

(2) 第2回アンケート・インタビュー結果

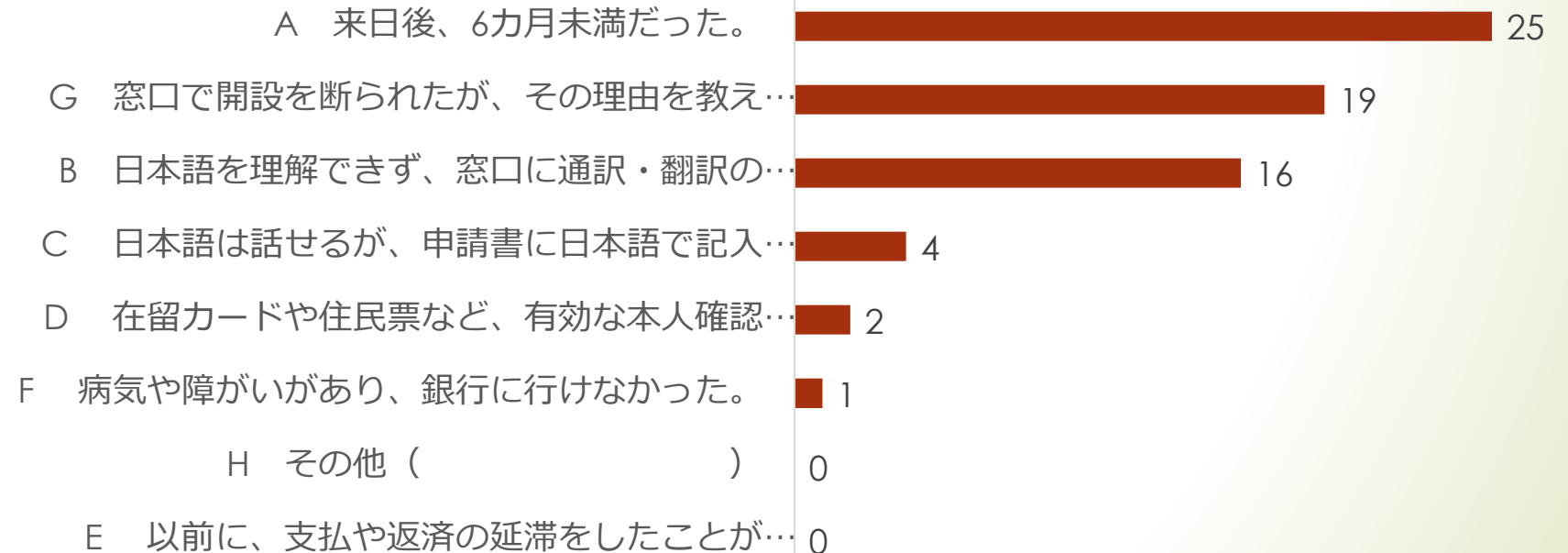
▶ 銀行口座を開設できなかった経験を持つ人が2割以上 (22%)

- ▶ 理由は「来日後6カ月未満」「理由を教えてもらえなかった」「日本語を理解できなかった」「通訳・翻訳がなかった」など
- ▶ 言語の問題や手続きの複雑さで苦労したとの声も多い
- ▶ 口座は、給与振り込みや各種料金の支払、預金など幅広く利用されている

問4 口座を開設できなかった経験



問5 口座を開設できなかった経験 (複数回答 ; N=53)



4. 調査結果

(2) 第2回アンケート・インタビュー結果

■ 金融機関からの借り入れや公的な支援、非営利組織やネットワークの支援に頼ろうとする人はごくわずか

- 収入が減少した場合、預金の取り崩しや生活費の削減、家族・親戚・友人知人との相互扶助で困窮をしのぐ傾向にある
- ROSCAs (近隣による相互扶助) の経験者は7%とわずか
- 外国人支援NGOや同郷外国人によるコミュニティ組織に参加したことがある人もわずか（それぞれ5%・3%）
- 自治体や民間団体が運営している生活相談サービス（国際交流協会など）を利用した人もわずか（5%）で認知度は低い



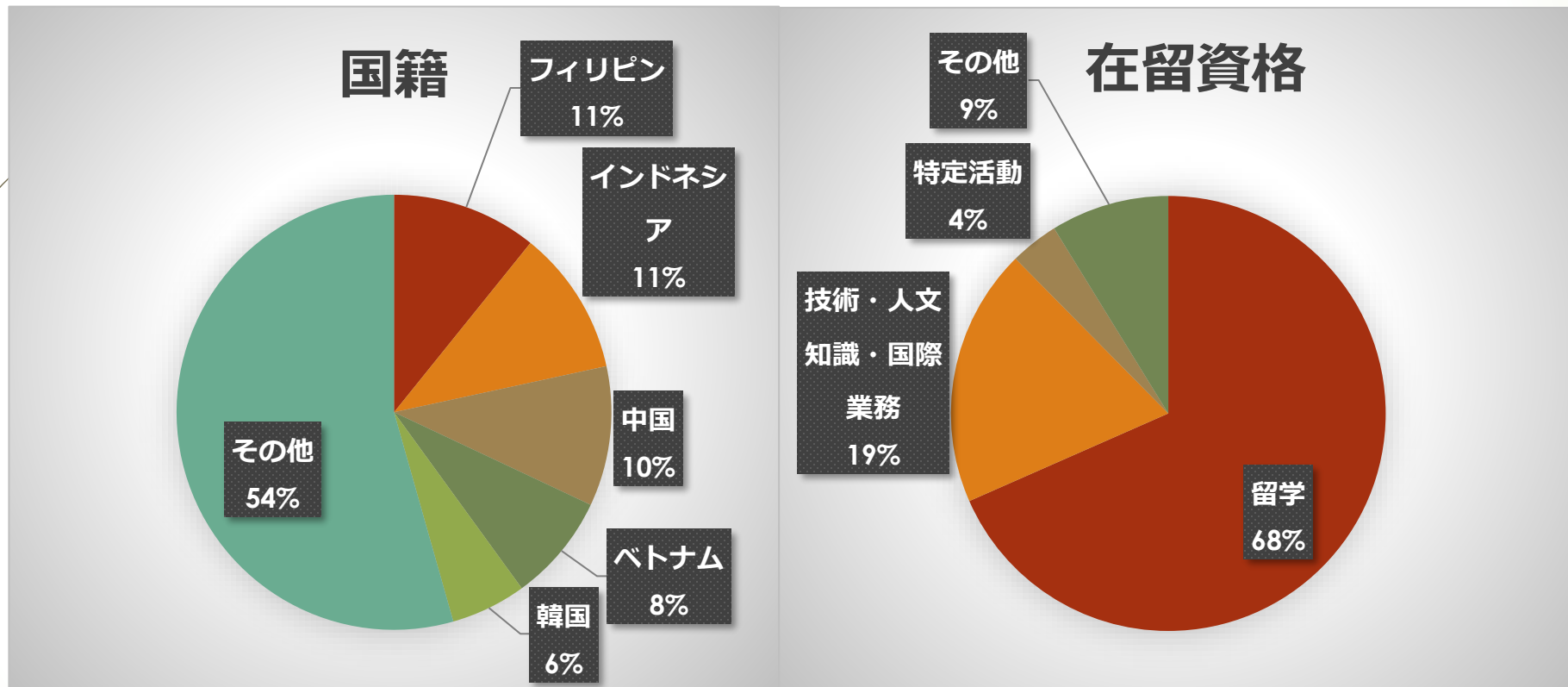
- 困ったときには自力で解決しようとするか、顔の見える身近な関係性の範囲内で打開しようとするメンタリティが強い

4. 調査結果

(3) 第3回アンケート・インタビュー結果

▶ 回答者の属性

- ▶ 東アジア・東南アジアが中心だが、アフリカなど国籍の分布が広い
- ▶ 在留資格は留学が3分の2を占める



国籍の「その他」は、インド、ネパール、ミャンマーなど計46か国

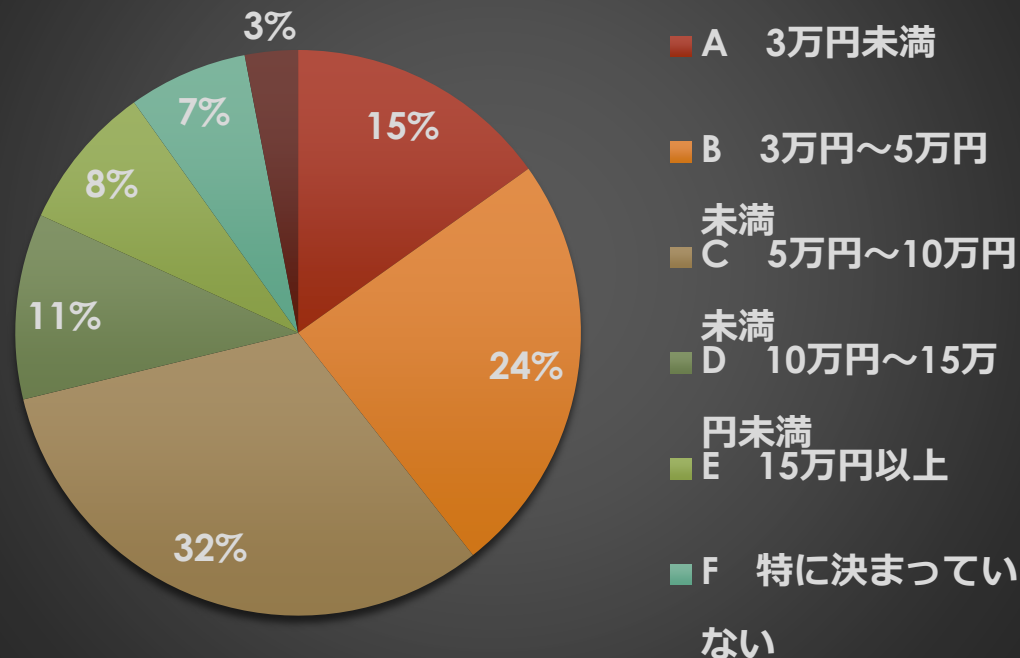
在留資格の「その他」は、技能実習、特定技能、高度専門職、経営・管理、技能など

4. 調査結果

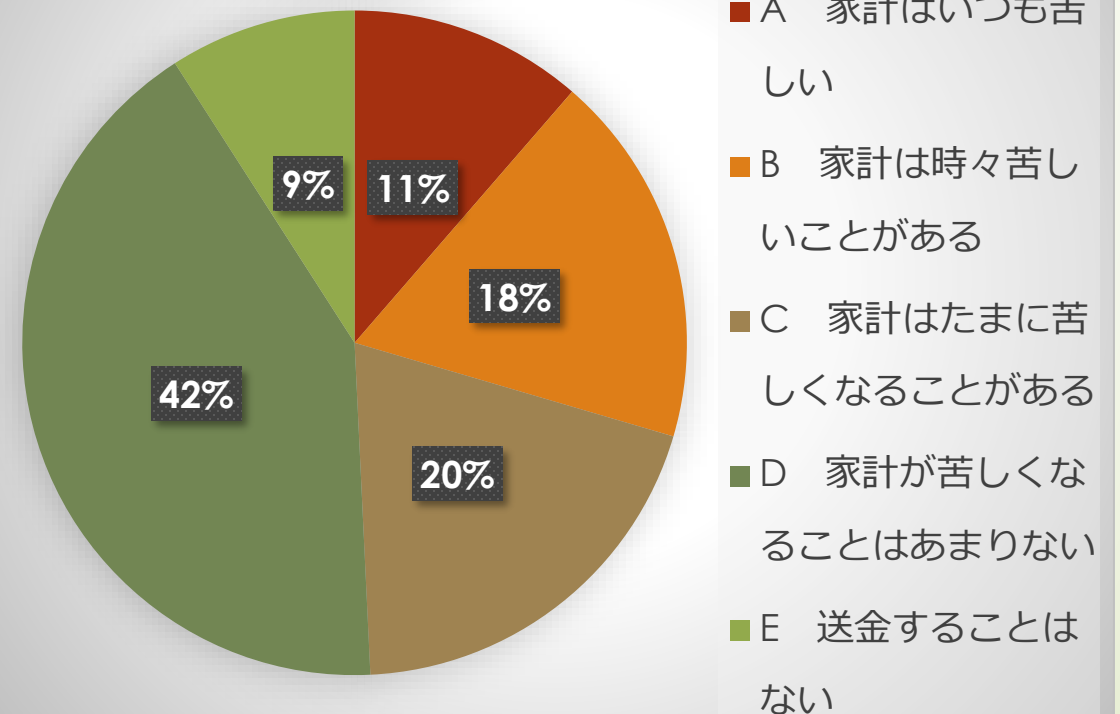
(3) 第3回アンケート・インタビュー結果

- ▶ **過剰な送金：祖国の実家への送金を優先し、結果的に困窮**
 - ▶ 手元に生活費をあまり残さず、収入を祖国へ。もともと低収入の人が生活を切り詰めて送金し、さらに家計が苦しくなる
 - ▶ 仕送りを持続可能にするには、手元に残す生活費や蓄えが重要

問17 手元に残す生活費



問18 送金による家計への影響



4. 調査結果

(3) 第3回アンケート・インタビュー結果

▶ 支払・返済の延滞

- ▶ 約4分の1 (24%) が何らかの滞納をしていた（借金返済、携帯電話料金、クレジットカードの決済、家賃、社会保険料など）

▶ 延滞により直面した困難

- ▶ 借金ができなくなった、クレジットカードを作れなかった、電気・電話などを止められた、銀行口座を開設できなかったなど

収入の減少と生活費の不足

活動系の在留資格は、金融機関での借
り入れが困難

各種料金の支払や債務の返済が滞る

様々な面で生活基盤の不安定化

支払・返済の滞納がもたらす影響

- ◆ 税金・社会保険料の滞納 ⇒ 在留期限の更新や永住権の取得が困難に
- ◆ 家賃・ライフライン（電気・水道など）の滞納 ⇒ 住居や生活の基盤を喪う
- ◆ クレジットカード、携帯電話代、債務の返済の延滞 ⇒ 信用情報に傷がつき、金融サービスの利用を断られる

5. 結論と本研究の限界

■ アンケート・インタビューの主な結果の整理

1. 各種保険や借り入れの利用が少なく、クレジットカードや借り入れができない人が多かった。言語の壁、知識・情報不足
2. 金融サービスに関する知識・スキルの不足を感じる人が多く、説明・助言の機会がなかったという人が大多数
3. 銀行口座を開設できなかった経験を持つ人が2割以上
4. 生活困窮に陥った場合、金融機関からの借り入れや公的な支援、非営利組織やネットワークの支援に頼ろうとする人は少なく、預金の取り崩しや生活費の削減、家族・親戚・友人知人との相互扶助で困窮をしのぐ傾向
5. 祖国に仕送りをしている人は、過剰な送金のために家計が苦しくなる傾向
6. 支払や返済の延滞を経験した人が約4分の1で、延滞による悪影響も

5. 結論と本研究の限界

20

■ 金融排除の問題状況の広がりと原因の多様性

- 銀行口座開設と海外送金だけではなく、保険や借り入れ、クレジットカードなど幅広い領域に
- 自動翻訳機を置けば全て解決するということではない
- 他の社会的包摂との関連（就労、医療、教育、住居など）
⇒ 金融包摂のための、より総合的な対策が必要

■ 本研究の限界

- 調査回答者が一部の在留資格にとどまった
- 外国人の多様性や平均像を正確に反映できなかった
⇒ 調査結果を一般化するには無理がある
- アンケート・インタビューは回答者の主観
⇒ 客観的な裏付けがまだできていない